

(案)

**旧RD最終処分場に係る特定支障除去等事業実施計画(案)
に対する滋賀県環境審議会廃棄物部会の意見**

実施計画案については妥当である。

なお、次の意見について配慮するよう申し添える。

- (1) 将来的な不安を残すことがないように、原因物質や要因の除去に努めること。
- (2) 有害物搬出先で適正な処理処分が行われているか十分な確認を行うこと。
- (3) 対策工事の実施前や実施後も含めて、十分なモニタリング調査を行うこと。

旧RD最終処分場に係る特定支障除去等事業実施計画(案)に対する滋賀県環境審議会廃棄物部会の意見(案)

各委員からの意見	実施計画書(案)における対応	審議会意見案(案)
<p>将来の処分場の跡地管理、跡地利用への支障も極力除去するという視点を入れたらどうか。単に現在の障害を除去するだけでなく、将来をも見込んだ対策を講じるべきだと思います。</p>	<p>有害物の位置を特定して掘削除去等の対策を講じる。</p>	<p>①将来的な不安を残すことがないよう、原因物質や要因の除去に努めること。</p>
<p>VOCの発生源探しは今後の対策でも重視する必要がある。早急に汚染源物質を除去すれば、今後の汚染の拡散は防止できる。</p>		
<p>重金属、VOCとならんで今後の支障と考えられる物質として硫化水素がある。硫酸イオンが高濃度の水では条件が整えば硫化水素の再発生の元となる。カルシウムイオンも高濃度なので、発生源は石膏ボードと思われる。硫化水素発生事故の再発を防止するためにも、石膏ボードや有機物などの除去、または地下環境の嫌気化の防止などが必要である。</p>		
<p>周辺への有害物質の拡散がないよう、回収すること。</p>		
<p>外部委託処分するものについては搬出先で適正な処理・処分が行われているか十分な確認を行うこと。</p>		<p>②有害物搬出先で適正な処理処分が行われているか十分な確認を行うこと。</p>
<p>一次対策による有害物質の撤去、新井戸からの浸透水の揚水により、下流地下水が環境基準を超過しないように十分なモニタリング調査を行うこと。</p>	<p>工事期間中、ガス・臭気・粉じん・騒音・浸透水質・地下水質のモニタリングを行う。</p>	<p>③対策工事の実施前や実施後も含めて、十分なモニタリング調査を行うこと。</p>
<p>周辺河川、水路のモニタリング、周辺の環境調査を実施すること。</p>		
<p>「下流地下水が環境基準を超過しないこと」とあるが、砒素等の濃度レベルを考えるとこの汚染は処分場由来なのか、と特定できないかも知れず、その場合にはこの目標は達成困難。どこまでを処分場に起因するか、合意ができていないのか。</p>	<p>調査および対策工事等に対する参考意見とする。</p>	
<p>重金属類はほとんどが基準値の数倍以内で、汚染は軽微。これを重視して処分場の汚染の現状、全体像を間違わないことが重要。</p>		
<p>地下水の重金属類による汚染レベルは以前より低くなっているようである。この意味でも地下水の砒素、ホウ素等による汚染を重視すると今後の対策立案の方向を誤る。</p>		
<p>モニタリングとして、水位関係の観測を入れる。揚水による浸透水の水位変動、影響範囲など観測し、最適な揚水位置、深度、揚水量などを把握する</p>		
<p>浸透水を揚水するならできるだけ集められるような位置・構造とすべき。</p>		
<p>ドラム缶は腐食していることを前提として対策を講じるべきである。</p>		
<p>処分場のいたるところにホットスポット的な危険箇所が散在している可能性が高いと思われるため、引き続き監視を続ける必要があり、必要に応じて対策を講じること。</p>		
<p>各自治体が個々に対応するのは負担が大きすぎることから環境省が経済的な助成はもとより統一的な手法・対応策を作成するよう各自治体が協働して提案する必要があるのではないか。</p>	<p>(旧処分場全体の物理探査を検討している。)</p>	
<p>ボーリング調査に加え、面的な把握をすること。</p>	<p>(栗東市において、農業用井戸のモニタリング調査を行い、結果を公表している。)</p>	
<p>下流側のKs-2層でかなりの濃度の硫酸イオンが検出されている。電気伝導度(Ec)も農業用(水稻)の水の基準(30mS/m以下)を大きく超える地下水となっている。周辺農家への注意喚起は必要と思われる。</p>		